

真島中央執行委員長挨拶要旨

本日はお忙しい中、このように早朝より全日本港湾労働組合政策推進議員懇談会の設立総会にご参加いただきました国会議員ならびに秘書の皆様方に、あらためて感謝申し上げます。

また、日頃より、全港湾 各地方本部・支部の運動方針に対し、ご理解とご協力を賜り、様々な意見反映を行っていただいていることに対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

私は全港湾中央執行委員長の真島です。設立総会開会にあたり、ひとこと挨拶を申し上げます。

全港湾は、日頃より組合員の団結の力によって綱領および各級大会で議決された運動方針を実現し、労働者の政治的、経済的、文化的地位の向上を図ることを目的としています。

しかし今日、特に政治的な課題がより重要な局面を迎えています。

港湾を見渡せば、港湾の中長期政策である PORT 2030 をはじめとした AI ターミナルやサイバーポートの実現など、様々な政策を国は提起しています。

しかし、そこには、そこで働く港湾労働者の声が反映されていません。港湾労働者の権利拡大、職域確保が担保されないような港湾政策、すなわち間違った規制緩和や合理化には断じて容認できません。

全港湾はこの間、賃金労働条件労使交渉や産別労使中央港湾団交では解決できない課題を全国港湾と一体となった行政交渉に取り組んでいます。

しかし、労働組合だけでは、関係する行政交渉での政策実現に向けて十分な対応は極めて困難です。

私たち、全港湾は魅力ある港湾労働実現のため、国会での質疑や各省庁への要請行動など、様々な局面で、国会議員の皆さまにご尽力を賜りたく、本日の設立総会までたどり着くことができました。

日本は島国です。輸出入貨物の99%以上が船を利用し、その船が貨物を積みおろしする大切な場所が港です。

日本は経済活動に大きな影響をもつ港として、国が指定した国際戦略港湾、国際拠点港湾、重要港湾など、全国には、その地域の特徴にあわせた港の発展がありました。また、港の周辺には多くの都市が発達し、工業地帯を形成して産業や経済を支えてきました。

経済や文化など、さまざまな面で国際社会との交流が活発になった今、世界の国々と日本を結ぶ接点として、港は大きな役割を担っています。

私はこのような港の仕事が大好きですし、誇りを持っています。港で働く若者たちが明るく活気のある環境でなければいけません。

このことを次の世代に引き継ぐことも、本日出席している私たち組合幹部の重要な使命であると感じています。

最後になりますが、日本の港湾の発展を願い、しいては、それが港湾労働者の地位向上と生活の安定が実現する、そのような政策推進議員懇談会となりますようお願い申し上げます、私からの挨拶といたします。よろしく願いいたします。